

コロナ吹き飛ばせ

足利附高 会場移し伸び伸び 体育祭

秋晴れの空の下、足利短期大学附属高等学校（岡島一浩校長）の体育祭が5日、足利市総合運動場陸上競技場で開催された。



400mリレー

同校はコロナ禍の中、様々な工夫をして生徒の活動の場を確保しているが、体育祭においても、例年実施していた「さいこうふれあいセンター多目的広場」から公式の陸上大会が開催できる「総合運動場」に会場を移して密を避け、安全な行事の運営を目指した。更に、検温・手指の消毒はもちろん、昼食前に終了するコンパクトなプログラムに変更をし、玉入れ競争と綱引きでは競技者が軍手を着用するなど、体育祭を成功させようとい

う生徒たちの自主的かつ協力的な行動でスムーズに競技が進められた。

当日は、生徒たちが放課後遅くまでかけて製作した各クラスの応援旗がグラウンドにはためき、生徒たちの熱戦を見守っていた。待ちに待っていたのは生徒だけでなく、応援に駆けつけた保護者も非常に多く、クラスごとAKB顔負けの音楽に合わせたダンスの披露や、400mトラックを使った10人のリレーでは、女子高生の歓声と一体となってコロナ禍を吹き飛ばしていた。



軍手をして綱引き